

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等小学2年生
道徳科・学級活動・国語科

目標・人権教育のねらい

- ・ 思い込みや偏見が相手を傷付けてしまうことを理解し、相手の気持ちを考えて行動するとともに、友達と仲よく助け合って生活しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・ 道徳科：徳島県人権教育資料「ひかり」を活用し、役割演技を通して登場人物の気持ちに寄り添い、仲よく助け合って生活することの大切さを理解する。自分の生活を振り返るとともに、よりよいなかまづくりについて話し合う。（8時間）
- ・ 学級活動：学級会や対話タイムを通して、児童が主体的に自分の思いや考えを伝え合う。（4時間）
- ・ 国語科：「言葉の宝箱」を活用し、語彙を増やすとともに表現を豊かにする。（4時間）

工夫した点

- ・ 話し合いの際には、座席や進行の仕方を多様化し、楽しく取り組めるようにした。
- ・ 人権学習の象徴である「なかまの像」の動画を家庭で視聴する機会を設けることにより、人権について親子で話し合った。

他教科との
関連

- ・ 生活科や図画工作科の時間に、自分や友達の良いところを伝え合い、自分の大切さとともに他の人の大切さを認める活動につなげた。

事業成果

- ・ 知：アンケートで「友達と考えや気持ちを伝え合うことは大切だ」を「とてもそう思う」と回答する児童が増えた。
- ・ 価：友達から言われて嬉しい言葉「ふわふわことば」をたくさん見つけ、自分の生活の中で使おうという意欲を高めた。
- ・ 技：教材を自分の生活と結び付けて考え、自分も友達も大切にしようとする発言や行動が増えた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

小学5年生 道徳科・特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・身近な生活の中にも男女の性差による固定的な見方や偏見があることに気付かせ、性別にとらわれず、互いの個性を認め合おうとする意欲を高める。

実施した内容

- ・徳島県人権教育資料「ひかり」にある「不合理なしきたり」という資料から登場人物の気持ちを想像し、性差による偏見について考え、そのことについて話し合う。（2時間）
- ・「ちがいのちがいカード」（“あわ”人権学習ハンドブック）を活用し、性別にとらわれることなく、その個性や能力を発揮することについて話し合い、考えを深める。（2時間）

工夫した点

- ・「ちがいのちがいカード」は、元のカードを参考に、児童の実態に応じてより身近な内容のカードを作成し、性差による偏見がないかを考えさせた。

他教科との
関連

- ・家庭科にて、家族がしている仕事の中から性別に関係なく自分が受けもてる仕事を分担できるように学習した。

事業成果

- ・知：性別に関係なく互いの個性を認め合い、男女がともに活躍していく大切さを理解する児童が増えた。
- ・価：友達と考えや気持ちを伝え合い、互いに協力しようとする意欲が高まった。
- ・技：友達のよいところをたくさん見つけ、互いに支え合い協力する児童が増えた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等小学4年生
道徳科・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・高齢者の思いや願いを理解し、尊敬や感謝の心情を持ち、温かい気持ちで関わろうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・徳島県人権教育資料「ひかり」にある「よもぎ荘との交流」の話を読んで話し合ったり、インターネットで調べたりすることで、高齢者に対する理解を深める。（2時間）
- ・高齢者の思いや願いから、自分たちにできることを考える。（1時間）

工夫した点

- ・事前に家族にインタビューし、高齢者のことについて自分の考えをまとめた。高齢者の思いや願いを話し合うことで、理解を深めた。
- ・介護職に携わっている方に高齢者に接するときの心構えを教えてもらった。

他教科との
関連

- ・社会科にて、地域で活躍する高齢者から豊かな経験や技術について学んだ。

事業成果

- ・知：誰でも年を取り高齢者になることを理解し、家族の大切さについて深く考えられるようになった。
- ・価：年を取るとできていたことができなくなることがあるということを理解し、高齢者の思いや願いに寄り添うことができた。
- ・技：離れて暮らしている祖父母に自分から連絡を取り合うようになった児童もいる。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立 学島小学校

人権課題

障がい者

対象学年・
取り扱った教科等小学4年生
道徳科・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・障がい者の人権を尊重し、互いの違いやよさを認め合い、共に生きる意識を高める。
- ・障がい者との交流等を通して、障がいについて正しく理解し、共に支え合うために自分たちができることを考え、望ましい人間関係をつくろうとする態度を育成する。
- ・障がいの有無に関わらず、誰に対しても思いやりの心を持ち、親切にする意欲や態度を養う。

実施した内容

- ・点字ブロックなど、身の回りにある「思いやりのかたち」について調べる。（2時間）
- ・盲導犬ユーザーと交流し、目の不自由な方への接し方や盲導犬と関わる時のマナーなどについて学ぶ。（2時間）
- ・人権啓発推進員による講演・交流を通して、「心のバリアフリー」をテーマに障がい者問題について考え、自分たちにできることを考える。（5時間）

工夫した点

- ・交流や体験的な学習を通して、障がいについて当事者から話を聞いたり調べたりすることにより、障がいに対する理解を深め、偏見やマイナスイメージを取り除くようにする。
- ・県立人権啓発推進センター「あいぽーと徳島」や県人権教育指導員等の講師派遣事業を活用し、障がい者問題や共に支え合う社会づくり等について出前授業をしていただいた。

他教科との
関連

- ・社会科にて、誰もが暮らしやすいまちづくりや地域の安全を守るための活動などについて学習した。その際、総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識し、障がい者の安心・安全を守るための取組や自分たちにできることを考えさせながら指導を行った。

事業成果

- ・知：様々な障がいがあることを知り、バリアフリーの必要性和障がい者の願いや思いについて理解が深まった。
- ・価：身の回りの障がい者との関わりの中で、自分たちができることを考え、共に支え合おうとする意欲が高まった。
- ・技：互いの違いを認め合い、誰に対しても進んで声をかけ関わろうとする行動が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等小学6年生
道徳・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・身近にある偏見や差別に向き合い、勇気を持ち、仲間と共に差別解消に向けて行動しようとする実践力と態度を育てる。
- ・字を識ることは、差別により奪われた権利や自由を取り戻し、人間らしく生きる活動であることや、差別に立ち向かい、学び続けることの大切さを理解し、差別解消に向けて行動しようとする意欲を高める。

実施した内容

- ・徳島県人権教育資料「ひかり」やいろいろな資料を通して部落差別の実態を知るとともに、差別に立ち向かう意欲を高める。（8時間）
- ・ゲストティーチャーに部落差別の実態や差別とは何かを聞き、自分にできることを考える。（4時間）
- ・学習して分かったことや思いをまとめ、識字学級と交流する。（4時間）

工夫した点

- ・ゲストティーチャーを招いたり、識字学級と交流したりする場を多く設定し、差別の現実から学べるようにした。
- ・学習を通して考えたことや分かったことを教室内に掲示し、自分達の意見を確認したり、今までの学習を振り返ったりしながら学習を進めた。
- ・児童の理解や考えが深まるように、内容のつながりを意識しながら系統的・横断的に学習を進めた。

他教科との
関連

- ・社会科にて、基本的人権や差別を受けた人々の優れた技術について学習した。その際には、道徳科や総合的な学習の時間での指導内容を確認しながら社会科の指導を行った。

事業成果

- ・知：部落差別や様々な差別の実態を知ることができた。また、部落差別によって奪われた基本的人権の理解が深まった。
- ・価：身の回りに起きている差別を自分事と考え、共有し、深めることができた。
- ・技：一人でいる友達に声をかけたり自分の発言を反省したりするなど行動に移せる児童が増えた。

令和 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等小学6年生
総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・近世のアイヌの文化や歴史について調べる中で、アイヌの人々が差別や迫害を受けたことに気づかせる。
- ・アイヌの人々の思いや願いに共感させることによって、アイヌの人々や文化等を尊重する態度を育てる。

実施した内容

- ・アイヌの文化についてインターネットや資料等で調べる。（2時間）
- ・資料を読み、アイヌの人々を取り巻く人権問題について考える。（1時間）

工夫した点

- ・授業の導入の際、生活で使われている身近なアイヌの言葉に触れた。
- ・アイヌ文化活動アドバイザーからご教示いただいたことや、資料・動画を活用し、児童がアイヌ文化をイメージしやすいようにした。
- ・少人数派が差別を受けやすいことを想起させ、同和問題とも関連付けながら学習を進めた。

他教科との
関連

- ・社会科にて、シャクシャインの戦いについて学習した。その際、総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識しながら指導を行った。

事業成果

- ・知：アイヌの人々や歴史について知ることができた。
- ・価：アイヌの文化や生活等を尊重しようとする児童が増えた。
- ・技：アイヌの人々の思いや願いを受けて、互いの考えを伝え合い、学習に取り組むことができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等小学3年生
外国語活動・道徳科・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・世界の国々には、言語や文化、生活習慣等の違いがあることに気付かせ、様々な国の文化に興味をもって、互いに認め合うことが大切であることを理解させる。
- ・相手を尊重し、言葉や生活習慣等が違う人に対しても、進んで関わろうとする意欲を高める。

実施した内容

- ・様々な国のゲストティーチャーから、言語や文化、生活習慣等について話を聞いたり、その国の食べ物に触れたりすることにより、それぞれの違いやよさについて考える。（8時間）
- ・興味をもった国の文化や食べ物等についてグループごとに詳しく調べる。（2時間）
- ・調べ学習や体験を通して学んだことをまとめ、交流する。（3時間）
- ・道徳科において様々な教材文を活用し、互いの違いやよさを認め合い、共に支え合うなかまづくりについて話し合う。（3時間）

工夫した点

- ・誰に対しても隔たりなく関わろうとする態度を養うために、体験的な活動や役割演技等を取り入れた。
- ・ALTや地域に住む外国の方をゲストティーチャーとして招き授業を実施した。それぞれの国の言語や文化、食べ物、遊び等について講義していただいた。その中で、自分たちの地域で栽培された外国産の野菜を紹介していただき、他国の文化が身近に感じられるようにした。

他教科との
関連

- ・社会科にて、町探検や外国の方が働く工場の見学等を行った。その際には、総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識し、学習内容を振り返らせながら指導を行った。

事業成果

- ・知：アンケートで「外国の文化や生活について知っていることがある」に対して、「とても思う」と回答する児童が増えた。
- ・価：様々な国の言語や生活習慣等について進んで学ぼうとする意欲が高まった。
- ・技：アンケートで「言葉や生活の仕方が違う人に対しても、進んで声を掛けようとすることができる」に対して、肯定的な回答をする児童が増え、誰に対しても進んで関わろうとする行動が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

H I V感染者等

対象学年・
取り扱った教科等

小学6年生 学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・エイズについて正しく理解し，H I V感染者とともに助け合って生活することのできる社会をつくろうとする意欲を高める。

実施した内容

- ・徳島県人権教育資料「ひかり」にある「わたしの友だちのこと」の学習を通して，エイズという病気への正しい知識をもち「なかまとともに生きること」や「相手の立場に立って行動すること」などについて考えた。（1時間）

工夫した点

- ・わたしたちの普段の生活ではH I Vには感染しないこと，エイズ患者の支援のためのさまざまな取組について知り，偏見や差別をなくすために自分たちにできることを考えられるようにした。

他教科との
関連

- ・体育科（保健領域）「病原体と病気」にて，ウイルス感染をはじめ，さまざまな病原体によって引き起こされる病気や支援のための取組について学習した。

事業成果

- ・知：エイズという病気による，偏見や差別があることを知った。
- ・価：差別を受けている人の思いに共感し，エイズ患者と共生するために行動しようとする心情が高まった。
- ・技：自分の生き方を見つめ，生命の尊さを感じながら命を大切にしようとする児童が増えた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

小学6年生
道徳科・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

・ハンセン病を正しく理解し、ハンセン病元患者への偏見や差別をなくそうとする態度を育てる。

実施した内容

・ハンセン病について、パンフレットやインターネット等で調べた。（1時間）
・徳島県人権教育資料「ひかり」にある「小さなかけ橋」を読んで、邑久長島大橋がなぜ「人間回復の橋」とよばれるのか、橋に込められた人々の願いについて話し合った。（1時間）

工夫した点

・病気についての知識のなさや勝手な思い込みが、偏見や差別につながる危険性があることを理解するために、新型コロナウイルス感染症の流行初期の社会の混乱を想起させた。

他教科との
関連

・体育科（保健領域）「病原体と病気」にて、感染症の正しい知識と予防法について学習した。

事業成果

・知：ハンセン病について正しく理解し、元患者が苦しんできた偏見や差別について知った。
・価：たくさんの情報の中から正しい情報を得ることの大切さに気付き、正しく知ろうとする意欲が高まった。
・技：元患者の思いや願いを受け止め、よりよい社会をつくるために、学んだことを他の人権学習に生かそうとする姿が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

犯罪被害者等

対象学年・
取り扱った教科等

小学5年生 道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・ 犯罪による被害を受けたことでその人を傷付けることは人権侵害であり、それによって被害者やその家族、まわりの人々に悲しみを与えるということを理解させる。
- ・ 一人一人がかけがえのない存在であり、自他の生命を尊重する態度を養う。

実施した内容

- ・ 徳島県人権教育資料「ひかり」にある「ママはずっといっしょだからね」を活用し、犯罪被害者やその家族の心情に共感させるとともに、なかまが誰一人としてつらい思いをせず、ともに歩いていける学級集団にするにはどうすればよいかを話し合った。（1時間）

工夫した点

- ・ 情報モラル教育と関連させ、マスメディアによって犯罪被害者の人権が侵害される場合があるという事実について考えさせた。
- ・ 多様な資料を活用し、娘を突然失った家族のつらさに共感させ、自分たちも家族にとって大切な存在であることについて考えを深める。

他教科との
関連

- ・ 総合的な学習の時間にて、情報モラルについて学習した。その際、道徳科での指導内容とのつながりを意識しながら指導を行った。

事業成果

- ・ 知：犯罪による被害を受けたことでその人を傷付けることは、被害者やその家族、まわりの人々に悲しみをあたえる人権侵害であると理解することができた。
- ・ 価：自他の生命を尊重しようとする意欲が高まった。
- ・ 技：一人一人がかけがえのない存在であり、互いを大切にしようとする姿が増えた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等小学5・6年生
総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・情報活用能力や情報モラルを身に付け、インターネット上でもよりよく他者とつながろうとする態度を養う。

実施した内容

- ・「ネット・ゲーム依存」や「SNS上のトラブル」に関する人権教育講演会を実施した。（1時間）
- ・講演から学んだことをもとに、自分たちのネットやゲームへの関わり方を振り返り、改善点などを話し合った。（1時間）

工夫した点

- ・保護者と共に講演を聴き、家庭でのネットやゲームの扱い方やルールについて、確認できるようにした。
- ・身近でわかりやすい事例を取り上げ、自分事として捉えられるようにした。

他教科との
関連

- ・道徳科にて「気に入らなかった写真」を学習し、インターネット利用に伴う責任について考えを深めた。（6年）
- ・国語科にて「メディアと人間社会」を学習し、情報のやりとりや思いを伝える手段としてのメディアとの付き合い方について学んだ。（6年）
- ・道徳科にて「守ろう インターネットモラル」を学習し、メールやSNSの利用の仕方について指導した。（5年）

事業成果

- ・知：情報モラルやネット上で起こりうるトラブル等について、理解を深めることができた。
- ・価：直接相手を目の前にしていないときでも、相手を大切にし、自分の発信する情報に責任をもって取り扱おうとする意欲が高まった。
- ・技：家庭においてスマホやゲームを使う際のルールを決め、それを守ろうとする児童が増えた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

北朝鮮当局による拉致問題等

対象学年・
取り扱った教科等小学6年生
道徳科・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・めぐみさんに対する両親の思いに共感させ、誰もが安心して生活できる社会をつくっていかうとする心情を高める。

実施した内容

- ・北朝鮮による日本人拉致問題が、重大な人権侵害であることを理解させるために、アニメ「めぐみ」を視聴した。(1時間)
- ・拉致被害者やその家族の思いや願いについて考えた。(1時間)

工夫した点

- ・北朝鮮への非難ではなく、拉致被害者や被害者家族の心情に焦点を当て、その理解や共感を図るとともに、朝鮮半島につながるのがある方への偏見や差別につながらないように配慮した。

他教科との
関連

- ・社会科にて、日本と朝鮮半島との関わりについて学んだ。

事業成果

- ・知：北朝鮮による拉致問題は、重大な人権侵害であると理解することができた。
- ・価：誰もが安心して生活できる社会をつくっていかうとする心情を高めることができた。
- ・技：相手の立場に立って物事を考えることができる児童が増加した。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

吉野川市立学島小学校

人権課題

性的指向, 性自認

対象学年・
取り扱った教科等

小学4年生 学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・思春期の心身の変化や多様な性のあり方について正しく理解し、互いの個性を認め合おうとする意欲を高める。

実施した内容

- ・徳島県人権教育資料「ひかり」にある「何であかんの」を学習し、男女の性差による固定的な見方・考え方があることについて話し合う。（1時間）

工夫した点

- ・保護者と連携し、児童が思春期の心身の発育・発達を肯定的に受け止めることができるようにした。
- ・心身の発育・発達には個人差があることや多様な性のあり方について取り上げた。

他教科との
関連

- ・体育科（保健領域）にて「体の発育・発達」を学習し、思春期の体の変化やそれに伴う心の変化について考えた。

事業成果

- ・知：男女の性差による固定的な見方・考え方等によって偏見や差別を受けることがあると知った。
- ・価：互いの個性を認め合い、自分だけではなく他者の体や心も、大切にしようとする意欲が高まった。
- ・技：心身の発育・発達等を肯定的に捉え、互いに協力し合う姿が多く見られるようになった。